

平成 27 年度長野市地域包括支援センター事業報告（活動報告）

全てのセンターで運営方針に基づいた事業を実施しておりますが、本報告は、運営方針や計画作成の留意点に記述されていないような各センターで工夫された取組、業務の具体的な取組報告等について概要をまとめたものです。

1 地域包括支援センター業務推進体制

〈自己評価の視点〉

- ①平成 28 年度地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成されている。
- ②平成 27 年度地域包括支援センター「事業報告」が適切に作成されている。
- ③3 職種連携によるチームアプローチが適切に行われている。
- ④職員の資質向上に対する取組を適切に行っている。
- ⑤個人情報の取扱い等、情報管理を適切に行っている。

《業務実施事例》

○事業報告等を法人理事会で承認を受けて公表

(ケアポート三輪、安茂里、コンフォートきたながいけ・にしつるが)

○毎日のミーティングに加えて月 2 回事業所内会議を開催し、情報共有と職員課間連携を図った。

(安茂里)

○研修資料をテーマごとにファイリング

(富竹の里)

○実態把握ケース、新規ケース等全員で回覧（相談支援記録表整備）等し、誰もが対応できる体制をとっている。

(コンフォートきたながいけ、コスモス)

○実態把握番号管理を行い、相談時に全職員が相談記録を取り出せるように管理している。

(富竹の里)

○病院で開催される倫理、接遇、救急処置方法等の研修会に参加し、資質向上を図っている。

(長野松代総合病院)

○個人情報保護に関する研修会参加を継続

(ケアポート三輪)

○キャビネットの施錠管理、個人情報のシュレッダー処理、USB・パソコンの持出制限を実施

(星のさと)

○全職員のパソコンに ID パスワードを設定

(富竹の里)

○FAX 送信は 2 名体制で番号と送信先を読み上げて確認。送信者の印と送信時間を記録

(長野松代総合病院)

2 総合相談支援業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域における多職種協働によるネットワークの構築とその活用を進めている。
- ②高齢者の実態把握を適切に行っている。
- ③認知症高齢者及び家族への支援に取り組んでいる。
- ④初期対応を適切に行い課題を明確化した上で、各業務へつなげている。
- ⑤公正かつ中立な立場で、継続的・専門的相談支援を適切に行っている。

《業務実施事例》

- 民生児童委員、保健センター、市担当課、介護支援専門員を交えて地域支援課題を検討
(ケアポート三輪)
- 地域の医療機関（病院、歯科医、薬局）や行政、福祉関係者、金融機関など地域の関係者が参加するネットワーク会議を開催し、顔の見える関係作りと情報交換の場とした。
(コンフォートきたながいけ)
- 遠方に居住する子からネット検索により地域包括支援センターへの電話相談が増加傾向にある。
(博愛の園)
- 認知症相談で警察での対応困難と判断されたケースがセンターに寄せられ、訪問するケースが増えている。
(博愛の園)
- 認知症高齢者の初期対応困難者は直営の初期集中支援チームに繋げ、それ以外はオレンジカフェに繋げて支援
(豊野)
- 民生児童委員とのケア会議開催により、地区内での生活困難者への介入を実施。地域課題を把握
(博愛の園、安茂里)
- 民生児童委員からの情報を得やすくし、ケース検討など負担感を抱く委員の精神的なサポートを行った。
(ケアポート三輪、安茂里、星のさと、吉田、コンフォートにしつるが)
- 支援困難者や訪問を嫌がる者には実態把握として民生児童委員と同行訪問。相談体制をつくりケア会議に繋げた。
(ケアポート三輪、若槻ホーム)
- 相談窓口の周知のため、資源マップを作成
(ケアプラザわかほ)

3 権利擁護業務

〈自己評価の視点〉

- ①権利擁護に関する啓発活動を適切に行っている。
- ②高齢者虐待への対応において、関係機関と連携した通報、支援体制を整え、高齢者虐待事例への対応を適切に行っている。
- ③成年後見制度、社協の日常生活自立支援事業・暮らしのあんしんサービス事業等の活用を促進している。
- ④消費者被害への対応を適切に行っている。
- ⑤高齢者の権利擁護に関して、職員の資質向上に対する取組みを適切に行っている。

《業務実施事例》

- 成年後見制度導入のため、成年後見センターと連携してケア会議（研修会）を実施
(ケアポート三輪、吉田)
- 「見守り支援情報」、「詐欺情報」を民生児童委員定例会で紹介
(ケアポート三輪、安茂里、星のさと、若槻ホーム、富竹の里)
- お茶のみサロンで警察とともに講座を開催
(コンフォートきたながいけ)
- 警察に依頼して介護予防教室で特殊詐欺防止の講話を実施
(コスモス、若槻ホーム)
- 研修に参加した社会福祉士が伝達講習や法人グループの研修会で高齢者虐待研修を実施
(コンフォートきたながいけ)
- 管内の介護事業者に消費者被害防止のチラシを FAX
(吉田)

- 身体的虐待ケースは警察と協議し支援体制をとった。更に介護支援専門員、保護司、家族等の関係者と支援会議を行い対応した。
(桜ホーム)
- 医療機関からの通報に市関係課と対応し、やむを得ない事由による入所措置となったケースがあった。入所決定までの間に、金融機関へ連絡し年金を搾取されないような対策を行った。
(桜ホーム)
- 配偶者からの身体的虐待に対し、援助老人サービスによる通所サービスを利用し見守り体制を整えた。
(桜ホーム)
- 弁護士を交えた支援会議の実施
(星のさと)

- 社会福祉協議会、成年後見支援センターと連携し、成年後見制度の申し立てまで支援
(桜ホーム)
- 成年後見センターだけでなく、長野市生活就労支援センター「まいさぼ長野市」等と連携を図った。
(コンフォートきたながいけ・にしつるが)
- 法律相談、法テラス、暮らしの安心サービス、司法書士等の紹介と同行訪問を実施
(ケアポート三輪、吉田)
- 判断能力が低下している高齢者の金銭管理を成年後見センターと連携して明らかにした後、特養入所に繋げた。
(長野松代総合病院)

○成年後見センターの支援に至らない小額な預貯金管理についての支援が大変困難。認知症高齢者の金銭管理は課題山積 (博愛の園)

○消費者被害発生時に直営センターに報告。ケアマネと被害者宅を訪問。利用している金融機関に連絡体制の連携を依頼。親族と話し合い電話機交換、成年後見制度を説明 (コスモス)

○訪問介護事業所と連携し、不審な契約書などの発見と解約への支援を実施 (ケアポート三輪、安茂里)

○不審な電話があった高齢者宅に警察と訪問し被害を防止した。 (吉田)

○管内で特殊詐欺の現金受け渡し時に警察が待機し、未遂に終わったケースが出た、啓発により消費者被害対応電話に切り替える人が増えた。 (長野松代総合病院)

4 包括的・継続的ケアマネジメント業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域のケアマネジャーに対する個別支援を適切に行っている。
- ②地域包括ケアに向けての体制作りを適切に行っている。

《業務実施事例》

- 退院支援では、入院時からの情報共有により、比較的スムーズに在宅復帰ができています。
(博愛の園、富竹の里)
- 総合病院との連携会議に参加し、入退院支援等への対応方法を検討
(ケアポート三輪)
- 介護支援専門員と事例検討、同行訪問、ケア会議を実施
(ケアポート三輪)
- 自立支援プラン作成や総合事業に関すること、在宅医療に携わる医師を講師としたケアマネ連絡会を開催
(安茂里)
- 主任介護支援専門員が居宅支援事業所を訪問し、相談を受けたり情報提供を行った。
(コンフォートきたながいけ)
- 地域の薬局、薬剤師が参加した事例検討、意見交換会を実施 (コスモス、星のさと、桜ホーム)
- 管内サービス事業所のサービス内容を確認・集約し、管内ケアマネと事業所の連携に役立てている。
(コスモス)
- 介護支援専門員のセクハラの相談に対応するなど、これまでにない多様な問題に対応
(ニチイケア高田)
- 障害者支援の学習会を実施
(芹田)
- 住民自治協議会との福祉懇談会に参加し、地域課題の把握と地域包括支援センターの周知活動を行っている。
(コンフォートきたながいけ)
- 「古牧ささえあいネットワーク会議」を開催。地域の具体的な困りごと」を抽出するための地区別ワークショップを開催
(ニチイケア高田)
- 新たに実施するケア会議について関係者に説明
(芹田)
- 障害福祉制度関係者、介護支援専門員、民生児童委員のネットワーク会議を開催 (富竹の里)
- 地区住民自治協議会と共催し「地域福祉関係団体情報交換会」を回開催
(コンフォートにしつるが、吉田)
- ネットワーク会議を開催し、2025年の社会に向け出来ることから始めるをテーマに話し合う。ボランティアが参加できる場づくりの支援を行う。(コンフォートにしつるが)
- サービス利用者の住環境の衛生管理面など介護支援専門員から話づらい件をセンターから利用者に話し、改善しつつある。
(長野松代総合病院)

5 介護予防ケアマネジメント

〈自己評価の視点〉

- ①はつらつアップ高齢者（二次予防事業の対象者）に対して介護予防の実践について適切な支援を行っている。

《業務実施事例》

- 新しい総合事業に関するモデル事業実施により、サービスを「自由に選択できる」ための支援に注力。「住民自らが支えあって元気になる」という住民自治協議会の理念に、より近づくことができている。
(ニチイケア高田)

6 その他

〈自己評価の視点〉

- ①市から委託を受けた介護予防に係る業務を適切に行っている。

《業務実施事例》

- 足腰鍛えて認知症予防をテーマに介護予防教室を開催 (博愛の園)
- 高齢者と小中学生交流会の機会を活用して、認知症の理解と高齢者との対応方法についての研修会を開催 (博愛の園)
- 公民館単位で介護予防教室を実施し、個別相談も実施 (ケアポート三輪)
- 認知症キャラバンメイトとして地域の認知症サポーター講座を開催。お茶のみサロンで認知症予防講座を実施 (ケアポート三輪、安茂里、星のさと)
- お茶のみサロン等地域の活動でセンター業務の周知
(コスモス、星のさと、富竹の里、吉田、コンフォートきたながいけ・にしつるが)
- 認知症カフェ立ち上げ相談支援。立ち上げ準備、設立、運営支援
(ケアポート三輪、安茂里、ケアプラザわかほ、ニチイケア高田、星のさと、芹田、豊野、富竹の里、コンフォートにしつるが)
- 認知症のポスターの掲示を依頼するため、銀行、郵便局、消防署、交番、コンビニなどに出向き、センターの役割について説明
(コンフォートきたながいけ・にしつるが、星のさと)
- 認知症連続講座を2地区で開催 (コンフォートきたながいけ)
- 認知症の介護者を対象に介護者のつどいを開催して、日頃の思いを話してもらい、同じ思いを持つ介護者同士の交流の場を設けている。 (コスモス)

- 医師会、歯科医師会、社会福祉協議会、保健センター、民生児童委員等の関係者により災害対応の研修会を実施 (コスモス)
- 住民自治協議会と地区社会福祉協議会と連携し、介護予防の「はつらつ体験講座」を2か所で開催し自主活動グループ育成に繋げている。平成28年度も新たな地区で開催予定 (コスモス)
- 新しい総合事業に向けた準備を開始し、住民自治協議会主催の通所型モデル事業設立支援、介護予防リーダー養成支援、通所型モデル事業実施協力を行った。平成28年度はより小さな単位の通いの場を作る目途がたった。 (ニチイケア高田)
- 新しい総合事業開始に向けて、法人の協力のもと、自主的な介護予防のグループ立ち上げに意欲のある人への介護予防教室を開催 (芹田)
- 健康寿命大学を地区社会福祉協議会と共催で実施 (星のさと)
- 新しい総合事業の概要について民生児童委員定例会で説明 (全センター)